

ANA ホールディングス株主総会報告書

検印 3	検印 2	検印 1	期間/報告日	2016/06/28	2016/06/29
			実施場所	グランドプリンスホテル新高輪	
			所属/氏名	システム開発部	吉野 雄理慈

株主総会の内容について、以下のとおり報告いたします。

I：内容

1. 監査報告

独立監査人の監査の結果、連結計算書類、計算書類、事業報告およびその附属明細書は会社の状況を正しく示していると認められる。

2. 事業報告

当期の連結業績は、売上高が 1 兆 7,911 億円（前期比 4.5%増）、営業利益が 1,364 億円（前期比 49.1%増）、経常利益が 1,307 億円（前期比 94.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益が 781 億円（前期比 99.2%増）である。

セグメント別の売上高構成比は、航空事業が 73.0%、航空関連事業が 10.9%、旅行事業が 7.9%、商社事業が 6.6%、その他が 1.6%である。

特に航空事業、航空関連事業については詳細な説明を行う。

(1) 航空事業

航空事業は、国内線旅客、国際線旅客、貨物、その他に分割される。

売上の内国内線旅客の割合は 44.1%である。旅客数は前期を下回ったが売上は上回った。

国際線旅客の割合は 33.2%である。旅客数、売上共に前期を上回った。

(2) 航空関連事業

売上は前期を上回ったが、連結子会社 Pan Am Holdings, INC の株式取得時に計上したのれんの未償却残高を一括償却したこと等から営業損失となっている。

3. 計算書類

連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書は招集通知の冊子に記載してある。

4. 対処すべき課題

国内では経済の大幅な成長が見込めない中、世界では複雑かつ急な環境の変化が起こっていると認識している。

この、リスクとチャンスについての環境認識を踏まえ、2016～2020 年度の ANA グループ中期経営戦略として、「安全の堅持」を土台としたうえでの「攻めのスピード経営の実践」を柱として掲げた。具体的には、「エアライン事業領域の拡大」「新規事業の創造と既存事業の成長加速」である。

5. 決議事項

(1) 議案の付議

第 1 号議案は剰余金処分の件である。当期の配当は普通株式 1 株につき金 5 円で、総額は 17,556,792,080 円とする。剰余金の配当が効力を生じる日は平成 28 年 6 月 29 日とする。

第 2 号議案は取締役 10 名選任の件である。本総会終結をもって取締役 10 名が任期満了となるので、全ての取締役を再任とする。

第 3 号議案は監査役 2 名選任の件である。本総会終結の時をもって監査役 金澤栄次氏及び松尾新吾氏が任期満了となるので、2 名を再任とする。

第 4 号議案は会計監査人の件である。新日本有限責任監査法人が本総会終結の時をもって任期満了となるので、新たに有限責任監査法人トーマツを選任する。

(2) 議案の決議

以上の4議案は、いずれも本株主総会で可決された。

6. 質疑応答

※以下、株主からの質疑を”Q”、取締役からの回答を”A”とする。

(1) 本総会前に事前に受けていた質問

Q1. 中期経営戦略「エアライン事業領域の拡大」について詳しく説明してほしい。

A1. 特に、長距離便・リゾート目的利用の層でのシェア拡大を目指す。

ファーストクラスのサービス内容を他社に対しての主な競争力とする。

Q2. 新機体 A380 の強みを詳しく説明してほしい。

A2. ①他機体に比べ席数が多いこと、②それにより旅客事業の増収がはかれることと、③マイレージ特典航空券の利便性が向上することが挙げられる。

Q3. 熊本県での地震に際し、企業として行った支援を説明して欲しい。

A3. ①4/18～5/8 における 175 便の臨時便運行、②4/18～5/31 における災害支援者と救援物資の無償輸送、③寄付マイルの受付、④キャンペーン「でかけよう九州」の実施、⑤除雪車で湯を沸かして浴場を用意するボランティア活動「こころの湯」の実施等を行った。

(2) 本総会で新たに受けた質問

Q1. 戦略「エアライン事業領域の拡大」に際し、新機体 A380 ではなくボーイング 777 など既存の機体を利用する選択肢は無かったのか。なぜ A380 を導入する決定に至ったのか。

A1. A380 は床面積が従来機の 1.5 倍あり、大幅な席数増加を実現する事で導入コストを十分に回収する売上増が見込める事が、大きなプッシュ要因になった。

Q2. イギリスの EU 離脱への対策は打っているのか。

A2. 現状は、慎重に対応を検討している段階である。なお、訪日客は減少し、日本人客の国際線利用は増加するだろうと予想している。

Q3. CA の機内食カート操作に関する不注意で怪我をした。CA の教育を改めて徹底してほしい。

A3. 誠に申し訳ない。指導を徹底する。

Q4. 熊本地震の復興支援として、被災者の無償教育（奨学金等）を行ってはどうか。

A4. 基本的にその予定は無い。ANA の CSR は、本業を通じて行う方針である。

Q5. 業務で化粧品を海外へ輸送しているが、審査基準のもう少し緩和する事はできないか。

A5. 特定貨物の基準は法令で定められているため、それは困難である。

Q6. 6 月から実施された株主優待券座席数の制限について取締役の見解を聞かせてほしい。

A6. 国内便利用者が減少する中でできるだけ維持しなければならないという課題に直面し、株主とそうでない顧客を含めた全体にとって満遍なく国内便の利便性を高めるためにこの措置を採った。ご理解を頂きたい。

Q7. 予告された遅延時間が何度も更新され延びていく事がある。これを改善できないか。

A7. ANA としても避けなければいけない状況と認識しており、申し訳ない。より一層努力する。

Q8. 私は JAL の機長だったが高齢によりリストラされた。ANA ではベテランパイロットの経験を大切にしてくれるようお願い。

A8. そのように努力する。

Q9. 全日空商事は店頭アルバイトの声が全く出ていない等、セールスへの意識が全く無いように思える。改善すべきだ。

A9. ANA FESTA 等の取り組みを通じて従業員の接客レベルを強化している。来期には十分に改善できるものと見込んでいる。

Q10. A380 は新規の機体であるため、整備レベルの不足による安全性の低下や整備コストの増加等のリスクがあるのではないか。

A10. 従来機体の整備ノウハウを活かせる部分が多くあるため、整備レベル、コスト共に問題ないと考えている。

整備技術を信頼して、エアバス社の方から ANA を指名して売り込んで頂けるほどである。

Ⅱ：所感

特に質疑応答の時間は、質問者が声を荒げるなど場が緊迫する瞬間がいくつかあった。決して安くはない株式を購入しているために、建前の通用しないやりとりになるのだと思う。私は今まで株主総会に出席した事が無かったため、この空気感が新鮮であり、とても良い経験になった。

私自身は、発言の機会があるなら何か言うつもりで会場に赴いたが、1000 人超の参加者の雰囲気圧倒されて実際は何も出来なかった。仮にこれからの社会人生活でこのような不特定多数の前で何か発信するチャンスがあった時は、萎縮して何も出来ないような事にはならないようにしたい。

以 上